

水族館月報

No. 142

1964年6月

6月の入場者数

一 般		団 体		有 料 合 計	特 別 観 覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
3 3.7 1 5	4 5 6	1 5.2 9 2	1 2 1	4 9.5 8 4	4 7 5
前年度比	1 9 6 3	1 9 6 4	増 減		
入場者数	4 7.5 3 1	4 9.5 8 4	+ 2.0 5 3		

水族館記事

- ◎ 3日 江川のエビ漕ぎ網漁師より、ニシキウニ、*Salmaciella dussumieri* (Agassiz) (殻径 4.5 cm) 1個体が入槽。この和名に似ず、殻と棘は緑色をおびた褐色で、一見サンショウウニに似ている。
- ◎ 11日 H水槽のインダイ。インガキダイは、他魚の尾鰭を噛み切る習癖が強くなり、同槽のハマチの被害が大きくなつたので、全個体(25尾)をF水槽へ移収した。インダイ類は水槽で飼育すると、しばしばこのような習性をあらわすが、数個体以下の時は、ほとんどそれを示さなかつた。しかし、4月以降、収容個体数が増したのと、今月はじめに、同槽へかなり弱つたブリを収容したさい、群をなして攻撃したことがもとなつて、元気なハマチもおそひようになつたらしい。噛み切られたハマチの尾鰭は、その後除々に再生している。
- ◎ 17日 北浜沖暗礁でタカベ幼魚(7~8cm) 12個体を潜水採集。イボダイ亜目の魚は、飼育が難しく、これまで長く飼つた記録がない。今回は採集時の取扱いに注意し、一部はミジンコで餌付けに成功したが、その後体表の「すれ」が悪化し、8日後に全滅した。
- ◎ 18日 冷却器内アルブラック管の亀裂のために故障していたNo1冷凍機の修理完了(齊藤商店係員2名)。No2機より本機に冷却運転をきりかえた。
- ◎ 21日 No25水槽(玄関正面の俯観水槽)は、給水事情が悪いので閉鎖して

いたが、その上部に大型卓上水槽（150×40×50cm, 10mm厚, 透明アクリル樹脂板製）をおき、これにクラゲ類と砂地の動物を展示することにした。給水は南側水槽列の給水主管を延長した開放式、排水はNo.25水槽を利用。今後この槽をNo.1水槽と呼ぶ（これまで、No.1は欠番になつていたので、疑問を表明する観客がかなりあつた）。

◎ 27日 No.30水槽のヒラタエイが幼魚（体長6cm）3個体を産出したが、やゝ早産だつたらしく、30日までに全魚死亡。

◎ 6月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
7日午後	円月島	素もぐり	1	小型磯魚
10日 "	南浜防波堤附近	磯採集	2	ケヤリムシ
12日 "	"	"、素もぐり	4	ダイド・プールの魚
16日 "	北浜沖岩礁	素もぐり	1	ハコフグ
17日 "	"	SCUBA潜水	3	小型磯魚
24日早朝	塔島東	一本釣	3	中型磯魚
29日午後	円月島	素もぐり	2	ウミシダ類
30日 "	塔島東	"	1	ヤギ類

上記のほかに地引網参加採集3回。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽）

無脊椎動物：ハナガサクラゲ、トゲナシヤギ、☆オヨギイソギンチャク、ウミケムシ、ケヤリムシ、イボシヨウジンガニ、☆シラヒメウミウシ、☆メクラガイ、☆ダルマクリムシ、☆オミナエシダカラ、ノコギリウニ。

魚類：ヒラタエイ、タカベ、キングヨハナダイ、オキゴンベイ、クモギンボ、ハナハゼ、イソスズメダイ、☆ダルマヌメリ、ホンソメワケベラ、イトヒキベラ、タケノコメバル、ウスバハギ、ハナオコゼ。

2. 購入

前月同様に、雑賀崎一本釣漁師と江川エビ漕ぎ網漁師よりの入槽が多かつた。

主な購入動物名

無脊椎動物：クルマエビ、フトミゾエビ、☆ヘイケガニ、メガネカラツバ、☆カラツバモドキ、☆ジュウイチトゲコブシ、ノコギリガザミ、☆ウロコオウギガニ、

ヤツシロガイ、トキワガイ、マダコ、☆ニシキウニ。

魚 類：☆ウチワザメ、ツバクロエイ、ヘコアユ、アカマツカサ、メアジ、☆
 ホウセキキントキ、☆テンジクダイ、☆クロイシモチ、サクラダイ、イトヒキ
 ハゼ、タコベラ、☆ウミズキチヨウチヨウウオ、☆クマドリ、ヒメオコゼ。

◎ 飼 育 概 況

例年6月は、もつとも白点病に悩まされる月であるが、本年はすでに、5月中に
 多発し、その処置を続けていたので、被害は予想外に少なかった。白点病のほか
 T-4水槽のスズメダイ類にウーデイニウム症が発生。これは、新たに購入したコ
 バルトスズメより感染したらしく、硫酸銅浴で治療したが、熱帯魚商より入る魚類
 は、寄生虫の有無によく注意する必要がある。また、エビ漕ぎ網による採集魚類は、
 当然予期されることながら、体表の「すれ」が多く、生残る率は極めて悪いが、時
 に珍種が入る期待もある。

6月30日現在飼育中の動物は、総計485種4144個体以上で、その内訳は
 次の通り。このうち、観覧水槽に飼育・展示中の動物は、456種3760個体以
 上。

カイメン類	3種	16個体	ゴカイ類	7種	23個体	イカ類	3種	89個体
ヒドロ虫類	3"	15"	カブトガニ類	1"	1"	タコ類	1"	3"
ハチクラゲ類	—"	—"	フジツボ類	5"	60"	ウミシダ類	3"	21"
ウミトサカ類	7"	17"	カメノテ類	—"	—"	ヒトデ類	10"	221"
ヤギ類	6"	60"	エビ類	14"	199"	クモヒトデ類	7"	20"
ウミエラ類	1"	4"	シヤコ類	3"	17"	ウニ類	14"	143"
イソギン チャク類	7"	54"	ヤドカリ類	10"	95"	ナマコ類	6"	35"
イシサンゴ類	10"	46"	カニ類	44"	275"	ホヤ類	3"	3"
ツノサンゴ類	1"	1"	アメフラシ類	9"	20"	軟骨魚類	10"	65"
ハナギン チャク類	1"	12"	二枚貝類	23"	233"	硬骨魚類	230"	1481"
ホウキムシ類	—"	—"	巻貝類	38"	896"	カメ類	3"	15"
			ヒザラガイ類	2"	4"			

資 料

6月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：16	6	6	4
室温（ °C）	$\frac{21.2 \sim 23.0}{22.1}$	$\frac{20.8 \sim 25.0}{22.9}$	$\frac{22.5 \sim 23.8}{23.1}$
水温（ °C）	$\frac{22.30 \sim 23.04}{22.69}$	$\frac{21.64 \sim 24.00}{22.92}$	$\frac{22.96 \sim 23.84}{23.38}$
比重（15 °C）	$\frac{2.493 \sim 2.562}{2.533}$	$\frac{2.544 \sim 2.575}{2.558}$	$\frac{2.216 \sim 2.529}{2.406}$

才3水槽室（水温）

H水槽（ °C）	$\frac{22.2 \sim 23.0}{22.7}$	$\frac{22.4 \sim 24.2}{22.9}$	$\frac{23.2 \sim 24.0}{23.5}$
T-8水槽（ °C）	$\frac{22.8 \sim 23.4}{23.0}$	$\frac{22.0 \sim 24.6}{23.2}$	$\frac{23.4 \sim 24.0}{23.8}$

海水取入口

水温（ °C）	$\frac{22.88 \sim 23.00}{23.15}$	$\frac{21.26 \sim 24.78}{23.36}$	$\frac{22.40 \sim 24.00}{23.54}$
比重（15 °C）	$\frac{2.536 \sim 2.575}{2.554}$	$\frac{2.561 \sim 2.586}{2.569}$	$\frac{1.917 \sim 2.569}{2.421}$

昭和39年7月15日 (No.142)

編集兼発行者 市川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜)2047.3515